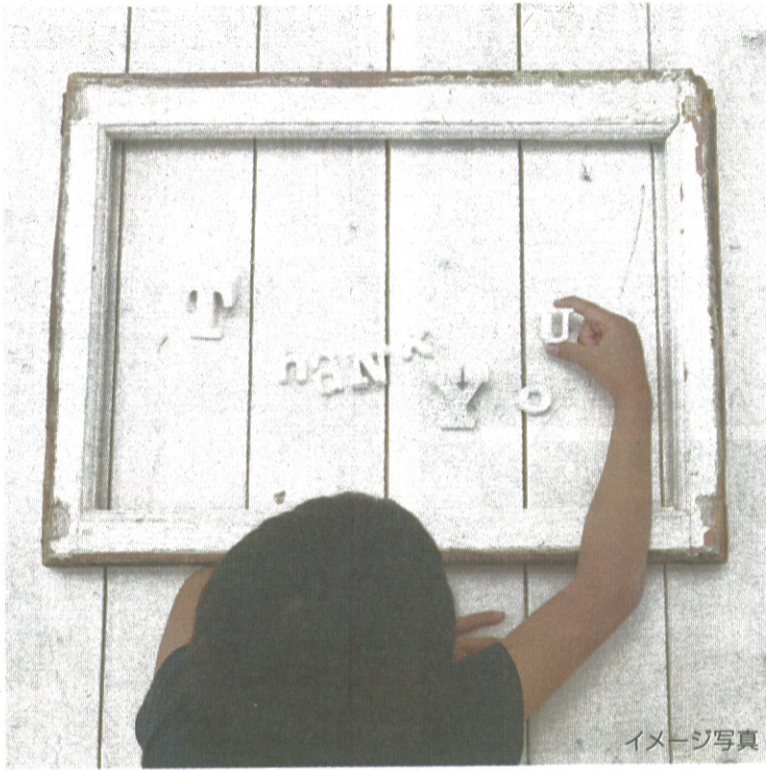


シックハウス対策で行政を動かした母親の行動力

九年前、わが子を通っていた市立のA保育所で改修工事が行われると知り、「これは大変」と立ち上がったBさん。もともとアレルギー体質である二人の子どもたちには普段それほど症状が出ていませんでしたが、以前行われた保育所の改修工事後、鼻水や微熱が続くことがありました。Bさんが活動していたアレルギーの勉強会では、当時、しばしばシックハウス症候群の問題が取りざたされ、化学物質が原因で不調を引き起こすことが分かり始めていたのです。



イメージ写真

市との話し合いで 建材の変更を要望

A保育所の改修工事は特例交付金で行われるため予算が確保されており、十分検討されいまま、設計入札、工事入札、監査などが進行しているようでした。工事を完了予定も二〇〇一年三月と決められていました。Bさんが市へ改装工事が、

再検討の要望書を提出したのは一月中旬。市との話し合いの場をようやく設定できたのは二月も終わりに差し掛かったころでした。話し合いを通じて、工事にははや止められない状況なのだと分かりました。「保育所の床の張り替えが必要だったとは今でも思えず、あれは不必要な工事だったのではないかと気がしてなりません」とBさん

揮発性有機化合物の数値測定は実現せず

話し合いの結果、最終的にはある程度、建材を変更することができました。床材は合板の予定でしたが、中国産ナラ材の無垢（むく）板をジョイント加工したポリウレタン塗装の集成材が使用されることになりました。ポンドが使われてはいますが、通常よりも少なめの量です。掲示板に使う合板はスギ板に変更され、クロスはノンホルムアルデヒドの接着剤で張ることにしました。Bさんたちは要望を受け

シックハウス対策の認識を沖縄に広めた功績

A保育所改修工事騒動後からわずか一年後の二〇〇二年に、建築基準法が改正され、シックハウス対策に関わる内容が明文化されました。室内環境汚染物質であるホルムアルデヒドを発生するおそれのある建材の使用を制限し、換気設備の設置も義務付けられることになりました。

学物質から子どもたちを守るため、行政を動かしたの

学物質から子どもたちを守るため、行政を動かしたのは、母親たちの強い思いでした。Bさんがメンバーの一員として活動していたアレルギーの勉強会は、目的を持って子育てする親たちの集まりで、Bさんはメンバーから刺激を受けたといいます。「アレルギーは個人の問題として対策しているだけでは、なかなか解決できないこともあります。全国各地の団体との情報交換もあり、県外の人の考え方や活動からいろいろ学ぶ機会も多かったですね」とBさん。シックハウス症候群の専門家の講演会を開催したり、県内のシックハウス症候群の現状を報告するブックレットを発行するなど、活発に活動していました。

取材協力／沖縄アレルギーを考えるシーサーの会



豊見城市豊崎タウン住宅用地

随時分譲申込受付中!

水鳥達が遊ぶ街…豊崎。爽やかな風が吹き抜けるブリーザータウン…豊崎。海に囲まれた環境は住む人に、ゆとりとやすらぎを与えてくれます。

分譲地の概要 平成22年12月10日現在の分譲状況

- 名称: 豊崎タウン住宅用地
- 分譲面積: 88,224.04㎡
- 所在地: 豊見城市字豊崎1番ほか
- 分譲画地数: 355画地
- 価額: 11,116,600円～45,947,800円
- 単価: 67,400円/㎡(約222,800円/坪)～73,400円/㎡(約242,600円/坪)
- 画地面積: 163.00㎡(約49坪)～661.12㎡(約199坪)

沖縄県土地開発公社 〒901-0225 沖縄県豊見城市字豊崎1番地の1